

第16回
令和7年
(2025年)

大好きな家族のこと、みんなに教えたい！

家族のきずな

2025年受賞作品集



大きく育てていこう
かけがえのない“家族のきずな”

主催／広島県モラロジー協議会

後援／広島市教育委員会・広島市PTA協議会・広島市退職校長会・中国新聞社・中国放送・広島テレビ放送・広島ホームテレビ・テレビ新広島・広島エフエム放送

家族のきずな

2025年 受賞作品集

もくじ

2	あいさつ
3	講評
4	選考・審査員
5	優秀賞作品
18	優良賞作品
38	参加学校名
39	モラロジーとは
40	企業協賛社・個人協賛者



公益財団法人モラロジー道德教育財団のホームページに
作品集のPDFを掲載する予定です。(12月初旬頃掲載予定)
※応募時に掲載許可を得た作品のみ掲載。



主 催 者 あ い さ つ



私共広島県モラロジー協議会は、地域や社会がより暮らしやすく、笑顔あふれる街となるように、人間性や道徳性を育むさまざまな教育活動に取り組んでいます。

その活動のひとつである「家族のきずな」エッセイ募集事業は今年で第16回を迎え、広島市内84校から、5,372篇もの作品が寄せられました。これもひとえに、ご応募くださった児童や保護者の皆様、担任の先生をはじめ学校関係者、広島市教育委員会の皆様、そして選考に携わってくださった選考委員の皆様のお力添えの賜物と深く感謝申し上げます。

「命の大切さを実感したとき」「家族の愛を感じたとき」「忘れられない家族の言葉」「祖父母や曾祖父母の思い出」などをテーマとしてエッセイの作成に取り組む児童の皆さんは、作品づくりの過程で、あらためて両親や兄弟姉妹、祖父母、曾祖父母、さらには祖先とのきずなの大切さや命の尊さ、生きることの素晴らしさなどに気づくことでしょう。

こうした気づきは、児童の心の成長だけでなく、学校における道徳教育の充実や、よりよい家庭づくりにもつながるものと確信しております。また、この取り組みが、先生方やご家族の皆様にとっても、児童の気持ちを理解し共有する良い機会となることを願い、今後も本事業の継続と発展に尽力してまいります。

末筆ながら、本事業にご後援を賜りました広島市教育委員会、広島市PTA協議会、広島市退職校長会、株式会社中国新聞社、株式会社中国放送、広島テレビ放送株式会社、株式会社広島ホームテレビ、株式会社テレビ新広島、広島エフエム放送株式会社をはじめ、運営にご協力くださいました企業ならびに個人の皆様に、厚く御礼申し上げます。

広島県モラロジー協議会 会長 中 川 斎



「家族のきずなエッセイ」の選考を終えて

今回も数多くの「家族のきずなエッセイ」が寄せられました。そこに描かれた様々な絆は、作者それぞれがこれまでの人生の中で見出した宝物とも言うべきものでした。手で触れることはできなくても、作者それぞれの心の中で揺るぎなく守られてきた宝物です。それらが、今後もずっと作者の人生を豊かにすることは間違いありません。優秀賞の作品の中から5年生たちの心の宝物をいくつか取り上げることにしましょう。

まず、宝物が普段の生活の中にあったという作品から。末益柑奈さん(『ほっこりタイム』)の宝物は、毎日、母と妹と三人で絵本を読む時間でした。それは日々の活力や慰めを生む、なくてはならないまさに「ほっこりタイム」です。大栗愛実さん(『「行ってらっしゃい」のお守り』)の宝物は、父がどんなに朝早く出かけても見送る母の「行ってらっしゃい」の言葉です。それは、危険な仕事をしている父が「無事に『ただいま』と言って帰ってくる」ための「お守り」でした。作者はそのお守りを受け継ごうと決心します。宇都宮あさひさん(『仲良し兄妹』)の宝物は、兄との相部屋です。父が別々の部屋にしようかと提案したとき、兄は「まだいい」と答えます。その返事にホッとした作者は、今日も兄の机と向かい合わせで勉強しています。中尾ののかさん(『自まんの妹』)の宝物は妹です。作者は、盲目の妹が音や匂いから場所を特定できることに気づかされます。妹は作者とは違った世界や能力を持つ人だったのです。

特別な出来事を通して得られた宝物もありました。本田遥大くん(『家族が増えた日』)と小林直翔くん(『家族がふえた日』)は同じタイトルのもとに、赤ちゃんの誕生を描いていました。二人は、ともにへその緒を切る役目を任せられ、それを通して人が生まれることの意味を理解します。「たいばん」は赤ちゃんの「ひみつきち」と語る小林くんの指摘は新鮮でした。

最後に紹介するのは、四世代に及ぶ家族が与えてくれた宝物です。竹内尚くん(『生き続けるひいおばあちゃん』)の宝物は、亡くなって、遺骨となり、お墓に入った曾祖母でした。「がいこつやゆうれい」が怖かった作者は、幽霊になった祖母になら会いたいと願います。伊藤礼華さん(『家族のバトン』)の宝物は一冊の古い本でした。あるとき、それが曾祖父の時代から、つまり曾祖父が祖父のために、祖父が母のために、そして母が作者のために読み聞かせてきた本であることを知り、その本が愛の絆の歴史でもあったことに驚きます。友田桃菜さん(『ひいおばあちゃんからの命のバトン』)の宝物は、今年、原爆死没者名簿に加えられた曾祖母です。作者は、曾祖母が生き抜いたおかげで今の自分が生きていることを踏まえ、原爆がなければ奪われなかった命から「子ども、まごが生まれて」「私と…友だちになっていた」かもしれないと考えます。そして、戦争が「未来をうばってしまう」と語るのです。

以上、多様な宝物の記録を紹介しましたが、それらを通して、私自身、気づかされたことがあります。それらの宝物が、安心できる家庭や安心できる平和な日常から見出されたものだということです。友田さんのエッセイにも関わりますが、悲惨な戦時下であって、はたしてここで紹介したような「家族の絆」が得られるのでしょうか。ウクライナやパレスティナの子どもたちが描く「家族の絆」を想像するだけでも辛くなります。日本の子どもたち、あまねく世界の子どもたちに、どうか幸あれと願わずにはられません。そうした思いへと駆り立ててくれた多くの優れた作品に感謝するばかりです。



選考・審査員



令和7年度

「家族のきずなエッセイ」作品選考委員会

選考日時／令和7年10月18日(土) 14:00～16:00

選考場所／広島県モラロジー協議会

委員長

越智 貢

広島大学名誉教授

委員

横矢 清人

広島市教育委員会 学校教育部指導第一課指導主事

委員

栗川 文博

広島市PTA協議会 会長

委員

高野 和博

広島市退職校長会

委員

城戸 良彰

中国新聞社 報道センター文化担当記者

委員

中川 喜直

(公財)モラロジー道德教育財団 中国ブロック 部長

委員

中川 斎

広島県モラロジー協議会 会長

委員

鋤田 晋二

エッセイ募集事業 実行委員長



予備選考委員

和田吉弘

石田 秀孝

柿木 澄男

正傳 彰子

高野 和博

平岡 満恵

広島市退職校長会の6名に予備選考委員としてご尽力いただきました。
ありがとうございました。



広島市長賞

伊藤 礼華 ——— 広島市立千田小学校

広島市教育委員会賞

友田 桃栞 ——— 広島市立中筋小学校

広島市PTA協議会賞

久永 あかり ——— 広島市立古市小学校

広島市退職校長会賞

末益 柑奈 ——— 広島市立緑井小学校

中国新聞社賞

竹内 尚 ——— 広島市立五日市観音西小学校

中国放送賞

本田 遥大 ——— 広島市立吉島東小学校

広島テレビ放送賞

遠藤 仁誠 ——— 学校法人鶴学園 なぎさ公園小学校

広島ホームテレビ賞

小林 直翔 ——— 広島市立伴南小学校

テレビ新広島賞

仲村 明日香 ——— 広島市立翠町小学校

広島エフエム放送賞

宇都宮 あさひ — 広島市立向洋新町小学校

モラロジー道德教育財団賞

中尾 ののか ——— 広島市立皆実小学校

広島県モラロジー協議会賞

大栗 愛実 ——— 広島市立毘沙門台小学校



家族のバトン

広島市立千田小学校 伊藤 礼華

家では今でも夜眠る時、誰からともなく本を持ってきて読み聞かせ始める。私は、この家族と過ごす時間がたまらなく大好きだ。

私の家には大きな本棚があって、多種多様な本の中に一冊のとても古い本がある。昭和二十二年発行のこの本は、ボロボロで触れると破れてしまいそうだ。母の本だ。

ある日、私はその古い本を手にとった。旧字体で書かれたページをめくっていくと、私ははっとした。そこには曾祖父の文字で、祖父の名前と読んで聞かせた日時、「風邪のため」とペンで書かれていたからだ。この本はリレーのバトンのようなもので、曾祖父から祖父へ、祖父から母へ、そして母から私へとつながれてきた、家族の愛のバトンなのだ。

私が元気な時も、病気で不安な時も、寄りそって本を読み聞かせる事で「大丈夫、一緒にいるよ、大好きだよ」と家族の愛を伝え続けてくれていたのだ。私は胸の中がポッと温くなるのを感じた。愛は温かいんだ。気がつくことが出来てうれしい。

私の受け取った愛のバトン。今度は私が子どもと家族にわたしていこう。



ひいおばあちゃんからの 命のバトン

広島市立中筋小学校 友田 桃栞

四千九百四十。これは、今年原爆死没者名簿に加わった人の数だ。この内の一人が、ひいおばあちゃんだ。ひいおばあちゃんは、ねこが大好きで、いつも笑顔だった。そんなひいおばあちゃんは今年の春、空に旅立った。

原子爆弾が広島に落された年だけで、約十四万人の方が、亡くなった。ひいおばあちゃんは、こわい中がんばって生き抜いた。もしあの時、ひいおばあちゃんの命もうばわれていたら、私のおばあちゃんも、お父さんも生まれていない。そして、私も。でも原子爆弾が落とされなければ、約十四万人の命がうばわれることはなかった。そうすると、その方の子ども、まごが生まれていたかもしれない。そして、私と同級生で友だちになっていた子もいたかもしれない。八月六日に、四千九百四十人の一人として、ひいおばあちゃんの名前が書かれたことを考えながら、改めて、戦争のおそろしさを感じ、こわくなった。戦争は、その時の人の命だけでなく、多くの人やモノの未来をうばってしまうことに気付いた。

ひいおばあちゃんが、私に命のバトンをつないでくれたから、今楽しく生きることができている。ひいおばあちゃんのように、笑顔でやさしい人になりたい。本当にありがとう。



おじいちゃんとおばあちゃんが 過ごした時間

広島市立古市小学校 久永 あかり

私のおじいちゃんとおばあちゃんは結婚して五十七年目です。おじいちゃんには私が生まれる前から心臓が悪くて、数年前からは特に体調が悪くなり、たくさんの薬を飲んでいました。そして、最近では薬をたくさん飲むことで起こる薬害でこれまで以上に辛そうなのです。そのような状態におじいちゃんを今も昔も支えているおばあちゃん。毎日の食事管理、洗濯、買い物などいろいろな事を一人で頑張っています。そんなおばあちゃんにおじいちゃんは強く当たる時があります。私は、そんな風に言わなくていいのと思うけれど、おばあちゃんはいつも笑顔で優しく答えるのです。私が「どうしてそんなに笑顔で優しくできるの？」とおばあちゃんに聞くと、「おじいちゃんはとても優しい人なのよ、体がしんどくてあんな言い方になるだけで強く当たるのは私を信じているからなのよ」と言いました。長い時間を一緒に過ごして来たおじいちゃんとおばあちゃんの間には見えない固いきずながあるのだと感じました。いつの日か私にも大切な人ができ、おじいちゃんとおばあちゃんのように固いきずなでつながることができたら幸せだろうなと思います。



「ほっこりタイム」

広島市立緑井小学校 末益 柑奈

「ほっこりタイム」の時間になると、お母さんは大体「集合」と言います。そうすると、わたしと妹は、お母さんの両側に一人ずつすわります。

わたしにとっての「ほっこりタイム」とは、お母さんとわたしと妹の三人でならんで絵本を読む時間のことです。お母さんは学校で絵本の読み語りの活動をしているので、絵本はよく読んでくれます。読む時には、大体一回で五さつぐらいは読みます。そして、読む時には、三人で思ったことを言い合いながら読んだり、三人で一ページずつ、もしくは一文ずつなど分けながら読んだり、楽しみながら読みます。わたしは、この「ほっこりタイム」が大好きです。理由は、「ほっこりタイム」は、その名前のとおり、お母さんとわたしと妹で絵本を読んで、笑い合ったり、いつしても心が温かくなり、ほっこりした気持ちになることが出来るからです。みんながほっこりした気持ちになると、つかれていても元気になれるし、ふんい気が明るくなります。

わたしは、家族で笑い合ってすごせる時間は大切にしようと思っています。「ほっこりタイム」は家族のきずなを深める大切な時間だとわたしは思います。



生き続ける ひいおばあちゃん

広島市立五日市観音西小学校 竹内 尚

去年の十月二十七日にぼくのひいおばあちゃんが亡くなりました。ひいおばあちゃんは、とても元気な人でそのとき年れいは、九十二さいでした。

ぼくは、いままでがいこつやうれしいは、こわいものだと思っていました。でもおそう式の後、ひいおばあちゃんが焼かれてほねになった時は、不思議とこわくありませんでした。

そして、この夏休みにお墓参りに行きました。今までひいおじいちゃんの名前が入っていた所にひいおばあちゃんの名前も入っていました。みんなでお墓の周りの草を抜いて、お墓に水をかけて、きれいにしたあと、線こうをたてました。両手を合わせて、目を閉じてひいおばあちゃんにまた会いたいなあと思いました。そう考えると、ひいおばあちゃんのうれしいならこわくないかもしれないと感じました。ひいおばあちゃんがまた出て来て、「よう来たねえ」とぼくの手をにぎって言ってくれたらうれしいなあと思いました。

人は、亡くなったら消えてなくなるんじゃないかって亡くなった後も思い続けてくれる人がいて、人の心の中で生きていくものなんだなと思いました。



家族が増えた日

広島市立吉島東小学校 本田 遥大

ぼくが六歳の頃、妹が生まれました。弟が生まれた時のことはあまりよく覚えてませんが妹が生まれた日のことはよく覚えています。

ママのお腹に赤ちゃんがいるとわかってから、ぼくはワクワクドキドキして不安だったけれど、妹が生まれたときは安心して涙が出そうなくらい嬉しかったです。へその緒を切る役に任命されてからは、赤ちゃんのことを勉強したり、毎日お腹に話しかけては、生まれてくるのを楽しみにしていました。予定日の一日前にママが痛みを耐えながら「今日生まれるかもしれない。」と言って、弟が背中をさすってあげたり、パパが急に準備をし始めて、ぼくもソワソワしながら手伝いました。車の中でも生まれるのではと心配しながら病院に着くと、あっという間に赤ちゃんが生まれて、ぼくに大役が回ってきました。へその緒は思った以上に固くて、すぐにはきれなくて、こんなにも強く、命と命を守るように、大事に大事に繋がっていたと知った時、嬉しいとともにすごいなと感じました。「おめでとう。」と言われながら無事任務を終えました。

人は生まれる前も生まれてからも色々な人に大切にされています。これからは妹を始め、家族みんなを大切にできる人になりたいです。



ありのままの自分

学校法人鶴学園 なぎさ公園小学校 遠藤 仁誠

「ありのままの自分って何だろう。」

そう心に疑問が浮かんだ。

小学四年生の頃、友達とのケンカのことでぼくは泣いたまま帰宅した。驚いた母は、言葉を詰まらせながら話すぼくを、やさしい目でずっと見てくれた。話し終わると、

「そんなことがあったんだね。でも気にする事はないよ。ありのままの自分でいてね。」

ぼくは「ありのままの自分」という言葉について考えた。でもはっきりとした答えは思い浮かばなかった。父も、

「気にするな。信用できる友達一人いればいい。ありのままの自分でいい。」

二人のあたたかい言葉に励まされ、ありのままの自分とは何かをもう一度考えてみた。

「優しい自分？怒った自分？楽しんでいる自分？仲良くできる自分？カッコいい自分？いや、自然な表裏がない自分だ。」

そう自分に言い聞かせると、本当にそんな気がしてきた。「ありのままの自分」で登校することにした。

その日の夕方、「自分が誇らしく思えた。」と伝えた。両親の言葉が輝いている様に聞こえた。そんなことを考えながら、信用できる友達と、ありのままの自分で仲良く遊んでいる。



家族がふえた日

広島市立伴南小学校 小林 直翔

ぼくは、学校に登校してすぐに、先生から帰る準備をするように言われた。お母さんが朝、お腹を痛がっていたのを思い出した。赤ちゃんが生まれるんだ!とわくわくしながら弟とおじいちゃんの車で病院へ向かった。

病院に着くと、お父さんがお母さんのこしをさすっていたので、ぼくと弟もいっしょにお母さんのこしをさすった。お母さんは痛そうにしていたけど、うれしそうだった。

みんなで分べん室に移動した。すぐに赤ちゃんの頭が出て、お母さんが頭をなでていた。そして、お母さんが赤ちゃんの手をにぎり、体も出てきた。ぼくは無事に生まれてきてくれてホッとした。そして、今までにないくらい感動した。ぼくは、へその緒を切らせてもらった。ホースみたいに太くて長かった。その後は、たいばんや赤ちゃんが入っていた袋も触らせてもらった。お母さんのお腹の中は、赤ちゃんのひみつきちみみたいになっていておどろいた。ぼくは、お母さんに「がんばってくれてありがとう。」と言った。お母さんも、「うん、ありがとう。」と言ってくれた。

ぼくは、この日のことを絶対にわすれない。赤ちゃんをしっかり守っていきたいと思う。



おじいちゃんの野菜

広島市立翠町小学校 仲村 明日香

私のおじいちゃんは八十三才で、とても元気です。庭を一面畑にして、トマト、なす、ピーマン、きゅうりなど、数え切れないほどの野菜と花を育てています。ふつうの住宅街の中に入りっぱな畑を作っているので、通りかかった人がびっくりするくらいです。今年の春、新たまねぎの収穫を手伝いました。長い葉を両手で引っばると、大きなたまねぎがポンポンと抜けました。その後、葉とひげ根をはさみで切り落としました。切っても切ってもなくならなくて、途中で目がいたくなかったけど、最後までがんばりました。

野菜や花を育てるのはたいへんなのに、どうしてそんなに世話をするのか聞いてみると、

「植物は一生けん命生きていて、手をかけた分だけ応えてくれるから、子供みたいにかわいいんよ。」

と言いました。私も、お父さんやお母さんやまわりの人たちに愛情と手をかけてもらっています。私がそれに応えられているかどうかは分からないけど、私も植物みたいに一生けん命生きようと思いました。そして、おじいちゃんには、私が大人になるまで元気で長生きしてほしいです。



仲良し兄妹

広島市立向洋新町小学校 宇都宮 あさひ

私には二さい年上の兄がいます。私は今年の春から五年生、兄は中学一年生になりました。それまで私たちは四年間、毎日一緒に登校していました。私たちは周りから「仲の良い兄妹だね」とよく言われます。母からは、「仲の良い分たくさんけんかもするよね。」と言われます。でも私たち兄妹は仲直りも早いです。たくさん話すし、たくさん遊びます。

私たちは、リビングのとなりの部屋に勉強机を向かい合わせにしていつも宿題をしています。ある日父が「そろそろ自分の部屋を作る？」と聞いてきました。すると兄は「まだいい。」と答えました。私はそれを聞いてホッとしました。向かい合わせで勉強すると、兄もがんばっているから私もがんばろうと思えるし、その日の楽しかったことを話すこともできます。

いつか兄も私も自分の部屋がほしいと思う日がくるかもしれないけれど、私はまだ今の部屋のままだいいです。これからも、仲の良い兄妹だねと言われ続けたいからです。



自まんの妹

広島市立皆実小学校 中尾 ののか

私が二さいの時に、妹は目の病気を持って生まれてきました。

お母さんは、妹の入院や病院で、いつもいそがしそうでした。その時は、私が小さかったのでいつも妹ばかり、かわいがっているように見えて、

「何で私は、かわいがってくれないの。」

と言いながら、よく泣いていました。でも、妹の病院からお母さんがひさしぶりに帰って来ると、いつも

「会いたかったよ。」

と、ギュッとしてくれて、とてもうれしかった事を覚えています。

妹は小学生になり、ほとんどの事は自分で出来るようになりました。妹は、目が見えなくても、私より耳もはなもいいです。だから、

「電車の音が左からして、ラーメン屋さんのにおいがして、右に曲がるとスーパーだよ。」

と教えてくれました。私は、そんな風に考えた事がないので、すごくびっくりしました。その時までは、目が不自由なのは大変でかわいそうだと思っていたけれど、目が不自由だからこそ分かる事がたくさんあると思いました。点字・漢字・計算・リコーダー・水泳・洗たくたたみ、何でも出来る自まんの妹です。



「行ってらっしゃい」のお守り

広島市立毘沙門台小学校 大栗 愛実

私のお父さんは、日本の人々のために大切な機械を直す仕事をしています。お父さんは、月に何回も出張に行きます。青森県や熊本県にも行きます。お母さんは、お父さんが出張で出かける時、どんなに朝早くてもお父さんのことを見送ります。車で出張する時は朝の三時台のこともあります。

「お母さんも仕事をしているので寝ていればいいのに。」

と私が言うとお母さんは、

「お父さんはあぶない仕事をしているでしょ。だから母さんは、父さんが元気に帰って来るように『行ってらっしゃい』って心をこめて言ってるんよ。母さんにとって「行ってらっしゃい」はお守りなんよ。」

と言いました。それを聞いて私は、お母さんのように「行ってらっしゃい」を言うことにしました。朝早くて起きられない時は、寝る前に心にこめて「行ってらっしゃい」を言うことにしました。

お父さんがケガをしないように、お父さんが無事に「ただいま」と言って帰ってくるように。



ぼくの名前

広島市立大塚小学校 伊藤 元気

ぼくの名前の「元気」は、色々な願いをこめて作られました。

ぼくはもともと、頭にへんな水があって、生まれても長くは生きられないと言われていました、それを聞いて、お母さんはすごく泣いたそうです。それでも、みんなが元気づけてくれて、なんとか生むけつだんをしたそうです。そうして、ぼくはお母さんの三十さいのたん生日に生まれました。生れてすぐにけんさをし、健康かどうかを調べました。そしたら、とても健康だと分かりました。なので、これからも元気に生きてほしいという願いをこめて、「元気」という名前がつきました。それから十年

たって、一年に一回、けんさをしに行かないといけませんが、健康で、元気に生きることができています。

ぼくは、この「元気」という名前を気にしています。今もとても元気に生きているし、頭のへんな水によるいたみや体の変化もありません。なんなら元気すぎてうるさいと言われることもあります。これからも、お母さんからもらった大切な名前の「元気」を大切に、これからも、元気に生き続けようと思います。



ぼくの一日の楽しみ

広島市立長束小学校 橋本 尊

「おばあちゃん、今日もかたたたこうか。」ぼくは、毎日おばあちゃんとおたがいにかたたたきをしている。それぞれ五分ずつ、交代してたたいていて、ぼくが学校に行く前や学校から帰った後など、だいたいぼくから声をかけている。ぼくは、勉強した後にたたいてもらうのが最高に気持ちがいいので、それを楽しみに宿題をがんばっている。たまにおばあちゃんからさそってくれることもある。そんな時はおばあちゃんがかたをたたいてほしいんだろうなと思って、少し強めにやってあげる。サービスで二分追加することもある。

「強さはこのくらいかな。」「ここをたたいた

ら気持ちいいだろうな。」ぼくはそんなことを考えながらたたいている。「気持ちいいよ。」とおばあちゃんは優しい顔で言う。

「今日もありがとう。」おばあちゃんの笑った顔を見て、おばあちゃんが今日も元気になってくれてよかったなと思う。

このかたたたきはぼくにとっては一日の楽しみの一つだ。おばあちゃんも同じように思ってくれていたらうれしい。



お空の色だよ

広島市立翠町小学校 池田 和琴

「お空の色だよ。」これは、6年前におばあちゃんが残してくれた言葉です。

私が「おばあちゃんの好きな色は何色？」と聞くと「お空の色だよ」と言っていました。それから私もお空の色が大好きになりました。空をみるといつもおばあちゃんのことを思い出します。なぜかというとそのあとすぐにあんなに元気だったおばあちゃんがとつぜん亡くなったからです。あれから私は、よくお空を見上げています。そして空には色んな表情があることを発見しました。雲一つないまっ青な空から、ソフトクリームのような雲

がメインの空、今にも泣き出しそうなどんよりした空もあります。でもやっぱりおばあちゃんが好きだったきれいなすんだ青色のお空の色が大好きです。

大好きなおばあちゃんが死んでしまったけど、空はなくなることがありません。だからお空をながめておばあちゃんのことをいつまでも思い出したいと思います。



ぼくのかみはおじいちゃんにしか切れない

広島市立五日市小学校 本多 優真

ぼくのおじいちゃんは、肺の病気が悪化して入院することになりました。おじいちゃんは理容師で、3カ月ごとに家族とぼくのかみを切りに来てくれていました。毎回、きれいに切ってくれました。でも、おじいちゃんは入院してしまい、手を動かすのがこんなになってしまったのでかみを切ることができなくなってしまいました。なので、理容室に行き、何回かかみを切ってもらいましたが、すごく気に入ったかみがたはありませんでした。ぼくのかみはまっすぐで短く切りすぎるとかみがういて変に見えてしまいます。おじいちゃんはいつも丁度いい加げんで切ってくれていた

のでかん単なのかなあと考えていました。理容師さんに、「かみがまっすぐすぎるから、かみがうかないようにするのはむずかしい。」と言われて、ぼくのかみを整えるのはむずかしいのに、おじいちゃんはすごかったんだなあと知りました。おじいちゃんは、こきゅうをするのが苦しいけど、今日までがんばって生きてくれています。ほんの少なからずべれるし、おじいちゃんががんばっているの時間がある限り会いに行きたいと思います。ここまでかみを切ってくれてありがとう、おじいちゃん。



お弁当

広島市立祇園小学校 難波 慧

朝、起きるとお弁当を作っている母がいる。父と弟二人、そしてぼくの分をいそがしそうに作っている。その時は海外に住んでいたの給食は無かった。四人分のお弁当を作っている母を見て、ぼくは感心した。学校に行くまでのわずかな時間でこれだけの量を作るとは……。

学校に着いた。昼ごはんの時間になり、おなかを空かせて「いただきます。」と言った。ふたを開けると、中に入っているのは母の愛情がこもった手料理ばかりだ。しかし、すでに作られてから何時間も経っているため、温かくはない。それでも母の愛情がこもった手料理は

ちがう意味であたたかい。お弁当はすごくおいしくて、いつも完食する。おなかいっぱいになり、感謝の気持ちをこめて「ごちそうさま。」と言うと、とても幸せな気持ちになれる。

家に帰ると母が待っている。「お弁当おいしかった。」という、「ありがとう。」と笑顔で返してくれる。ぼくはそんな母が大好きだ。

朝早くから心をこめてお弁当を作ってくれている母に感謝して食べるお弁当は、一番おいしいと思った。おいしさとは、食材や作り手のうでだけでなく、愛情も必要だと思った。



つないできた命

広島市立春日野小学校 佐藤 壱都

ぼくにはずっと気になっていた事がある、ひいおじいちゃんと父から話してもらった戦争の時の話だ。

戦争にかり出されたひいおじいちゃんは空母の中で料理をつくる仕事をしていた。いつものように船で仕事をしていたら、船がアメリカ軍にこうげきされてその船はちんぼつしました。その後ひいおじいちゃんは泳いでフィリピンまでにげ、そこでとらえられアメリカのほりよにされた。ふくらはぎとてのひらをじゅうでうたれたそう。やがて終戦をむかえ、ひいおじいちゃんは帰って来た。

その後ぼくは、もしもの事を考えてせずじ

がゾクツとした。もしもうたれたところがちがっていたら。もしもひいおじいちゃんが亡くなってしまっていたら、おじいちゃんもお父さんもいなかったかもしれない。そうするとぼくも弟も生まれていなかったかもしれない。

先祖代々つないできた命をぼくが絶やすわけにはいかないから、先祖への感謝の気持ちをわすれずに今日も精一ぱい命をつないでいきたい。



ぼくと妹と弟

広島市立矢野西小学校 畠山 泰典

ぼくには、小学二年生の妹と、二才の弟がいます。妹が産まれたとき、まだぼくは三才だったので、妹のことを何も考えていなかったと思います。ぼくが遊んでいるところに妹が来ると、じゃまだと思ったのでしょうか、ハイハイしかできない妹をコロコロ転がして、遠くに追いやっていたそうです。

ところが、弟が産まれたときはちがいました。九才もはなれていたからだと思いますが、弟がかわいくて仕方ありません。弟をねかしつけたり、おむつを変えたりするのは朝飯前です。弟が二才になると、ぼくがお風呂に入れるようにもなりました。弟の体をあらい、二人

で湯船につかります。お風呂から出て、体をふいておむつをはかせます。弟のお世話をするときがとても幸せです。

確かに、二才の弟がいることで、我慢しなければいけないことや、行動が制限されてしまうことがあります。しかし、ぼくがテレビを見ていると、弟はぼくのひざの上に乗ってきます。ぼくがピアノを弾いていると、弟が連弾をしに来ます。特別なことがなくても、日々の何気ない日常が幸せだと感じるのは、ぼくと妹と弟の三人がいて、それを温かく見守ってくれる父と母がいるからだと思います。



愛情ごはん

広島市立白島小学校 三木 綾乃

私は夏休みの間に晩ご飯作りに挑戦してみました。いつもは、父と母が仕事が終わってから家族のごはんを「今日は何作ろうかなあ〜」と冷蔵庫の中の食材を見ながら、パパッと作っている。そこで夏休みの間に料理にチャレンジすることにしました。1人でやるために、まず本屋に行って自分が読める料理本を買った。メニューを決めたら、材料を買った。お米をたいて、とりの照り焼き、カボチャの味噌汁、つけ合せの野菜を作った。ひとつずつ作ったので、2時間ぐらいかかった。とり肉をひっくり返すところが難しく手伝ってもらったところもあったけど、何とか完成した。「すごく

おいしい！お店に出せれるよ。野菜もしっかり使ってバランスもいりどりもバッチリだね。」とほめられ、母は写真をとっていた

いつも何気なく食べていたけど、ごはんを作るのには、レシピを考え、段取りを考え、同時におかずを作り、いりどりを考えて盛り付けていたことを知った。家族においしく食べてもらうために、愛情がたくさんこもっていると感じた。時々、私も「愛情ごはん」を作っていきたい。



ふたご

広島市立中筋小学校 坂田 麻衣

わたしはふたごです。生まれた時から二人で遊んだりけんかしたりいつもいっしょです。赤ちゃんの時はおふろもミルクも夜泣くのも二人同時だったので、お父さんとお母さんは大変だったそうです。でも少し大きくなると姉妹で長い時間遊んでくれるので、その間家事ができて助かったとも言っていました。

ずっといっしょにすごしてきたわたしたちですが、ある時入院ではなればなれになりました。たったの五日間の入院、お母さんもいっしょについてきてくれたけれど、さびしさとおつらなさで一日がとても長く感じて、一か

月以上入院していたんじゃないかなと思うほどでした。家では姉もずっと元気がなかったそうです。たいいんして家に帰ったときはやっぱり二人いっしょが落ち着くなあと感じました。お父さんやお母さんをひとりじめできなくて悲しいと思った時もありましたが、ふたごっていいな、姉妹っていいなと思いました。

五年生になった今、お父さんやお母さんにたくさん心配をかけて育ててもらった分、姉妹で力を合わせておかえししたいです。そのために学校でがんばります。



ぼくを、ささえてくれる家族

広島市立安西小学校 三 武士 椰人

ぼくは、赤ちゃんのころから色々な食べ物にアレルギーがあります。ぼくが1才の時、アナフィラキシーを起こしお母さんはとても心配したそうです。そこからぼくのアレルギーとの戦いが始まりました。

検査のために入院したり、食事作りにも注意が必要になりました。学校に入ると友達と同じものを食べられないので悲しい思いをすることもありました。お母さんに、「何でボクはアレルギーなの？」と、何度もたずねました。お母さんは、「アレルギーは個性だよ。」と、いつもはげましてくれました。お母さん

は、ぼくが卵や牛乳が食べられなくても、オムライスやピザやシチューも工夫して作ってくれます。アレルギーのために外食も行ける所がありませんけどその分家でおいしいご飯を沢山作ってくれます。お父さんも妹も気にしてくれて、アレルギーがあっても家族のきずなのおかげで楽しい毎日が送れます。

ボクのアレルギーのおかげで、家族のきずなが深く深くなったのかもしれません。これからもアレルギーと仲よく戦っていこうと思います。



お父さんのぬくもり

広島市立宇品小学校 森 谷 勇 太

ぼくには二人の家族がいる。それは、お父さんとお母さんだ。でも、いつもいっしょにいるのは、お母さんだけ。お父さんは、ふだん、遠くの県に出ちようしていて。家にいない。お父さんに長い間会えないのは、さみしい。けれど、長い休みなどに、帰ってくる。お父さんが帰ってきてくれたときに、グューとだいてくれてお父さんのぬくもりが、すごく伝わってくる。そのぬくもりが、あたたかくて、お父さんが、ぼくに会いたかったんだなと伝わる。だから長く会えなくても、お父さんが大好き。みんな、お父さんがいつもいて、いいなと、思うけど、そんなに会えないからこそ、お父さんと

の時間を大切にしようと思える。お父さんも、ぼくに会えなくて、さみしいと思うけど、がんばっていることをおもえば、とても、がんばれるし、お父さんが仕事をがんばってくれているから、旅行などへもつれていってくれる。ぼくはそんなお父さんのぬくもりが大好き。ぼくは、家族には、いろいろな形があって、いいと思う。ぼくの、家族の形は、みんなの形とは、少しちがうけれど、そのちがいがあからこそ、家族を大切にできる。みんなちがってみんないいと思う。



大好きな妹

広島市立中筋小学校 坂田 結紀

「大好き」これは二才下の妹が私に言ってくれた言葉です。私の妹はおさないころから母のことが大好きでいつも母にべったり。三姉妹でも遊びますが、すぐに母のもとへ行ってしまう。そんな時もう一人の妹が入院することになり、つきそいで母も病院へ行ってしまう。5日間の入院の間、家では妹が一日に何度も泣いて、私をたたいて当たり散らしました。「私だってさびしいのに」と必死でがまんしていた私の心は雨の空のようでした。留守番に来てくれた祖母は、泣く妹をやさしくなだめてくれました。でも夜、ねる時間になると祖母は家事をしてくれているため、二

人だけになってしまいます。ベッドの上でもしくしく泣き続ける妹と上手く接することができない私は困ってしまいました。「どうしよう」と思ったその時「だっこ」と目をはらした妹が私のところにきてうでにしがみつきました。私がぎゅうっとすると、妹は「大好き」と言って泣きながらねむりました。その時、私の心も晴れたように感じました。そんな甘えん坊だった妹も九才になり、あの時のできごとがうのように生意気になりました。でも私は妹が大好きです。これからも三姉妹で助け合っていこうと思います。



妹は、一番の宝物

広島市立牛田小学校 小川 遥子

私には、二歳の妹がいる。妹が生まれた時、今までにないくらい嬉しかったのを覚えている。

最近、妹が寝る時間になると「おねーちゃん、一緒にねねしよー。」と誘ってくる。一旦、自分がしている事を止め、妹の方へ行くと、私にかけよって抱きついてくる。そして一緒に寝る。

妹は、いつもニコニコ「おねーちゃん、あれやって。」「おねーちゃん、おねーちゃん。」といってくる。私はとっても幸福感に満たされる。何に向かっても一生懸命な妹の姿に、いつも癒やされている。妹が家族の言う事を聞か

ない時、私が優しく伝えると泣きやむのだ。また、妹はよく私に向かって「おねーちゃんだいすき」と言ってくれる。私も妹を抱き上げてこう言う。「お姉ちゃんもだよ。」と。

妹が生まれてから、私は小さい子のお世話がとても得意になった。この前は、三歳以下の子たち(四人)の相手を、私一人で、した。でも、あまり大変ではなかった。むしろ、ものすごく楽しかった。そして、妹のおかげで、将来の夢を決めることができた。『幼稚園教諭』これからも、大好きな妹との時間をしみながら、夢に向かって走って行きたい。



おばあちゃんのぶどう

広島市立袋町小学校 神谷 太郎

福山市のお母さんの実家には、ぶどうの木が植えてある。そのぶどうを食べるたびに、六年前に亡くなったおばあちゃんを思い出す。

今年八月二十二日、おばあちゃんの七回忌で実家に行った。おじいさんやいとこたち八人が集まった。みなでおはか参りに行き、おはかの前で手を合わせた。「今、おばあちゃん何してるの?」。ぼくは心の中で語りかけた。返事をしてくれるかなと思ったけど、声は聞こえてこなかった。

みんなで実家にもどり、お弁当を食べた。学校の事や大好きなソフトボールの話でもり上がり、本当に楽しかった。いとは、ゲーム

を楽しみ、「家族は本当にいいな」と心から思った。

その後、お母さんといとこいっしょに庭に出た。そこに植えてあるぶどうの木の前でお母さんは「これはおばあちゃんが植えたんだよ」と教えてくれた。はさみで五ふさ切りとり、しゅうかくした。

今、家にはおばあちゃんのぶどうが置いてある。今夜、家族と食べたいと思う。「おばあちゃんおいしいよ」。みんなで語り合いながら味わいたい。きっとおばあちゃんは、笑いながら「元気だよ」と言ってくれるはずだ。



一まいのかけ布団

広島市立神崎小学校 寺山 慶

これは三年前のお話です。自分が、家族の愛を感じた代表的なものです。

寒い冬でした。布団の中が凍えるような寒さで自分は、震えていました。

「あー凍え死にそう。早く温まってくれないかな。」

自分とはっさに言いました。そうすると、

「わしが入ろう。」

とお父さんが言い布団に入ってくれました。

そうすると、つられて弟も。しばらくするとお母さんもいつの間にか入っていて、気が付くと寒いどころか熱くなっていました。

さすがに四人も、布団の中に入っているわ

けですから少しきゅうくつになり、もっと熱くなりました。しかし、外に出てみるとやっぱり寒いので体を半分外に出して、半分布団の中にいれました。この時お母さんが、

「温まった？」

この時みんなは、ぼくのために布団の中に入ってくれたんだと、気づいた時、心が、温かくなりました。

ぼくの家族は、時には、はげましてくれたり相談にのってくれたり自分事のように考えてくれます。そんな家族が大好きです。



特別なタッチ

広島市立矢賀小学校 池田 葵

私は、母のタッチが大好きだ。私が学校やじゅくに行くとき、いつも母はタッチをしてくれる。母のタッチはふつうのタッチとは違って、「愛情」・「安心感」がとてもつまっている。

ある日、私がじゅくのテストであまりいい点が取れなくて不安だったときに、「次、がんばればいい」、「大じょう夫」そんな声かけとともに母はタッチをしてくれた。それに、昔うちえんが不安で行きたくなくてだだをこねていたとき、母がタッチをしてくれた。

そうやって母は私が不安になったときに、タッチをしてくれた。そのタッチは不思議と不安が消え去っていくように感じていた。そ

うしてタッチでいつも母は私の心をいやしてくれ、はげまし、安心させてくれた。

私は、そしてこう思った。この安心感や愛情が感じられるのは母のタッチだけなんだと他の人のタッチとは違う「特別なタッチ」だと思った。

この特別なタッチをいつまでも忘れることのないように特別な世界に一つだけの宝物・思い出にしたいと私は思う。



笑う門には福来たる

広島市立吉島小学校 光本 灯

ぼくの母ちゃんは、いつもぼくや父ちゃん、友達までも笑わせる。

母ちゃんは家で、ふざけてばかり。こんな母ちゃんはほかにいないと思う。でも、母ちゃんといると、とても楽しいし、おもしろい。いつもいつも爆笑させられて、時には息ができなくなって、死ぬかと思った。

ぼくの母ちゃんは、とても運がいい。いつもいつもくじを引いて当てている。

母ちゃんの運がいいのは、いつも笑って、ふざけているからだと思う。理由は「笑う門には福来たる」とことわざがあって、母ちゃんはよく笑うからだ。よく笑う母ちゃんには福が来

て、運がいい。そのことに気づいたから、ぼくも、母ちゃんと楽しく笑って、父ちゃんを笑わせて、家族みんなで福をむかえ行けて、楽しく毎日をすごしていきたい。そして、いつも母ちゃんに笑わしてもらっていたから、次はぼくが母ちゃんを笑わせて、いや爆笑させたいと思う。

「がんばるぞ!」



自慢の最強メシ

広島市立己斐東小学校 斎藤 壮真

ぼくのお母さんの作るメシは最強だ

ほくほく湯気の立つあつあつごはん、とろとろのおみそしる、香りだけでごはんが2、3はいいけそうなオカズ、どれも最強だ。

ソフトボールの大会の後の夜ごはんはサイコーだ。一口食べると、つかれがふきとぶ自まんの最強メシをわずか二十五分以内でペロリと食べてしまう。

お母さんの作る弁当も最強だ。じゅくの夏期こうしゅうから帰って弁当ふたを開けるとペロリと食べてしまう。そしてじゅくの宿題もスラスラ解けてしまう。

お父さんの作るメシも最強だ。

お父さんはあまり作れるメシは少ないが、早く作れておいしいメシを作ってくれる。

ソフトボールの練習でヘトヘトな時に作るメシは特に最強だ。食べるとつかれがふきとんで午後にあるじゅくもがんばろうとやる気がみなぎってくる。

ぼくがお父さんやお母さんの最強メシを毎日食べていることに感謝したい。そして、お母さんやお父さんが大切に育ててくれたから今があるということをわすれずにこれからも最強メシをたくさん食べたい。



初盆

広島市立安北小学校 多田 想奈

先日、私のおじいちゃんの初盆でした。

お盆前に、きゅうりとなすの精霊馬を、ぶつだんにかざりました。なぜ、かざるかというときゅうりは馬にみたてて、早く帰ってこられるように。なすは牛にみたてて、ゆっくり天国へもどれるように、かざるそうです。

次に、白いちょうちんを、作りました。白いちょうちんをかざるのは、故人のれいが、まよわず家へ帰ってこられるようにかざるそうです。ちょうちんはみんなで手作りしたものをげんかんやリビングにかざりました。

おばあちゃんは「これでじいじが迷わず家に帰ってこれるね。」とよろこんでいました。

8月13日、みんなでご飯を食べました。おじいちゃんの写真もつくえに置いて。「おじいちゃんは、みんなでわいわいするのが好きだったから、よろこんでくださいね。」とよろこんで言っていました。

お盆のさいしゅう日、わたしは、おばあちゃん おじいちゃんの家にとまりました。そして、いつもおとまりするときは、おじいちゃんのとりにいたので、おじいちゃんのベッドのとりにでねました。おじいちゃんがとりにいるようでした。せんぷうきのかげがおじいちゃんのように見えました。



眉毛ときずな

広島大学付属小学校 井上 和洋

ぼくのおじいちゃんは、ぼくが生まれる一年前に亡くなりました。

だけど、ぼくはそのおじいちゃんにきずながあると思っています。また、生まれ変わりだとも思っています。その理由は、まだ生きているおばあちゃんがぼくにそっくりと笑顔で言ってくれることやかざってある写真を見ると、すごく眉毛が濃く、太いということです。ぼくは、おじいちゃんに直接会ったことはないけれど、きずなを感じました。

そして、またすごいことがありました。いとこが万博で二十年後の未来の自分をAIで行うと、ぼくのお父さんにすごくにっていたので

す。すごくびっくりしたし、本当にそうなるかはわからないけど、きずなはすごく深くて、大切に、すごいものなんだなと思いました。きずなといのちがどれだけ大切なのかということがわかりました。眉毛ときずなはつながっているなと思いました。

家族とのきずなを大切にしていきたいです。



わたしのおばあちゃん

広島市立草津小学校 脇野 桃花

わたしのおばあちゃんは、多系統萎縮症という病気です。それは、どんな病気かというと、神経系の複数の部分が少しずつ萎縮し、少しずつ体が動かなくなる病気です。しだいに、少しずつ声も出にくくなります。

病気になる前は、手芸がとく意でした。料理も上手で、おばあちゃんの家に行ったら、よくポテトやパンなど色々作ってくれていました。今も昔もとてもやさしいので、わたしのお母さんが肺炎になって病院に行った時、夜でもかけつけてくれていました。

だけど病気が進行するにつれて、そのようなことができなくなっていきました。今はも

う、食べるのがつらいので、手術して食べなくても栄養が取れるように、いろいろというものを付けました。なので今、すごくやせてしまっています。昔はわたしの面どうを見てくれていたおばあちゃんでしたが、今では逆の立場になってしまいました。かいごの大切さが、改めて分かりました。

おばあちゃんの前の日記を読んでいると、わたしと弟ともっともっと遊びたかったと書いてありました。わたしはおばあちゃんのことを大好きなので、治し方が見つかって、前のように遊べるようになることを願います。



わたしの一番の楽しみ

広島市立宇品東小学校 楠田 芽以

わたしのお母さんは毎日、ねるときにふとんをかけて来てくれます。これが始まったきっかけは二年前のある夜、お母さんが「お母さんは毎日、ねるときにおじいちゃんにふとんをかけてもらっていたよ。だから、めいちゃんにもお母さんがふとんかけてあげようか。」

と言われました。わたしは一秒もたたずに即答で答えました。

「うん」

と。それから毎日お母さんにふとんをかけてもらってねるようになりました。わたしのお母さんにはふとんのかけ方に特ちょうがあり

その特ちょうは三つあります。一つ目は「バサッ」と体に強く当てる。二つ目は「ドーン」とずっしりくるようにする。三つ目は「フワッ」と体にやさしく置くことです。わたしは一番「フワッ」とかけられるのが好きです。お母さんもおじいちゃんに「フワッ」とかけてもらうことが一番好きだったそうです。なぜならかけてもらったしゅん間に、ふとんと自分の体の間に冷たい風が入りこむことで、頭の中がすっきりするのと楽しくなるからです。おじいちゃんからお母さんに、そしてわたしに続いていると思うとうれしいです。



命のとうとさ

広島市立南観音小学校 中井 徹

ぼくのお父さんは、ぼくが一年生の時に、この世を去りました。ぼくは、その時家族といっしょに病院に向かっていたところでした。

しかし、ぼく達が病院に着く前にもう亡くなっていました。そして、病室に入ると、目をとじて、永遠のねむりについていました。そして、その光景を見た瞬間、目からは自然に涙があふれてきました。

そのまま、五分以上泣き続け、お医者さんが、「二〇二一年十月二〇日午前八時二〇分。死亡が確認されました。」

と言い、ぼくはピクリとも動かないお父さん

の横で泣くのをこらえながら立ちつくしました。そのときまでは、分からなかった「命のとうとさ」がどれだけのものなのか実感しました。

学校に行く時の「いってらっしゃい。」。学校から帰ってきた時の「おかえり」が一つへる。その事の重大さがその時の涙を自然に出したのでしょうか。

ぼくや家族、周りの人々のかけがえのない命を大切に、一秒一秒無駄なく生きていきたいです。



じまんのお父さん

広島市立己斐東小学校 藤岡 咲太朗

ぼくは、野球をやっています。

かんとか、コーチに教えてもらっているが一番教えてくれるのはぼくのお父さんです。

ぼくが打てなくなった時もはげましてくれるのも、一丸となって練習をしてくれるのも全部お父さんです。

実は、お父さんはずっとサッカー部でやっていた。

それでもぼくが野球をやっているから一から野球を学んで一生けんめい教えてくれました。

そういう所が一番じまんです。

ふだんからやさしくておもしろいです。

教えてくれる時はまずお父さんがどういう感じでやるかまず試してくれます。

それで電気に当たってこわれたけど本気でやってくれているのではないと思ったしむしろうれしかったです。

そしてしんぱんもやってくれています。

何事にも本気で一生けんめいやる世界一のお父さんです。

サポートしてくれるお父さん見習ってぼくもお父さんみたいなお父さんになりたいです。



ばあちゃんのコロッケ

広島市立井口小学校 村井 琢実

「そろそろ千葉にまた帰りたいな」
習い事が忙しくなって、なかなか千葉県にいるばあちゃんの家に行くタイミングがなかったり、短い期間しかいらなかったり。久しぶりに行きたいという気持ちがどんどん強くなっていく。ばあちゃんが僕のために作ってくれるコロッケは、無性に食べたくなる味だ。心の底から「うまい」と思える。

塾から帰ってきたとき、テレビのニュース速報で、千葉に三メートルの津波警報が出たことを知った。ばあちゃんが大丈夫か、とても気になった。お父さんも少し心配している様子だったけど、きっと大丈夫だろうと願って

いた。結果的には何もなかった。でも、またいつか何か起こったりするのではと思った。ばあちゃんに突然、会えなくなる日がくるかもしれない。

いつかの電話で、ばあちゃんは嬉しそうに「次はいつ帰ってくるの？何か食べたい物はある？」と聞いてくれた。遠く離れていても、僕のことを一番に思ってくれているばあちゃんの愛情を感じた。

特別なコロッケの味は、いつも僕に千葉に帰った実感を与えてくれる。だから、今年もばあちゃんにコロッケを作ってもらおう。



大好きな兄

広島市立石内小学校 飯田 日彩

私には、じまんの兄がいます。兄は高校生になって、陸上の強い高校へいくため、家からでていってしまうことになりました。さみしくて夜、泣いてしまいました。次の日、ご飯を食べる時1つ席があいていました。兄がすわっていた席です。かなしかったです。1ヶ月後、兄が帰ってきて、うれしかったです。夜ご飯を食べる時、みんな笑っていて、やっぱり家族全員いたほうが、いつもの倍たのしいし、ご飯もおいしく感じる、と改めて実感しました。また、兄は高校に、行ってしまいました。もちろん、かなしかったです。でも、今は達くはなれていても、一生家族だし、私のじ

まんの兄で大好きな家族だから、大丈夫と思うようにしています。

大学生になって、年に1、2回しか会えなくなってしまうけれど、やっぱり私のじまんの兄で、大切に大好きだから、私が兄だったら考えると、私は泣いて見送ってほしくないと思いました。だから、次大学から帰ってきて、また大学に行ってしまう時は、「いってらっしゃい。がんばって。おうえんしているよ。」と笑って、家族みんなで兄を見送ってあげたいです。



おこりんぼうの母

広島市立皆実小学校 竹平 侑夏

今日もおこられた。毎日、「まだやってないの。」「早くしなさい。」もううんざりだよ。なんでささいな事でもおこるのかな。でも、その理由が分った。私が宿題の答えを写したことがばれた時、お母さんは私に「何でそんな事したの?。」と聞いた。私はおこられるのが怖くて、うそを言おうとした。けれど、お母さんが真けんな表情だったので、ごまかしたらだめだと思い、素直に「ごめんない。写す方がかん単だし、早くゲームがしたくて。」と言った。お母さんは「正直に話してくれてありがとう。でも、それじゃ自分のためにならないよ。」と言った。おこられると思っていた分、お母さんの言

葉がひびいて、泣いてしまった。お母さんがおこる理由は、私の一番近くで真けんに向き合ってくれているからだを知った。私はおこられるのがとても怖かったけど、おこられることは自分をより良い人にしてくれるためだと思って、うんざりせずに、ちゃんと聞こうかなと思った。

どんな時でも私と向き合ってくれる家族に感謝したい。



ぼくのふとん

広島市立八幡東小学校 妹尾 旭

ぼくは、家族のきずながとても大切だと思います。なぜなら助けあうことで、うれしかったり、なやみが消えたりすることがあるからです。

ぼくはねそうが悪くて、よくふとんをけりとばしてしまいます。でも、夜中に目が覚めるといつもふとんがかかっています。お母さんが何度も起きて、ふとんをかけなおしてくれているのです。ふとんがかかっていることに気付くと、「お母さんがなおしてくれたんだな。」と思って、いつも心が温かくなります。心が温かいと、幸せです。

家族がぼくのことを思ってくれたときや、ぼくが家族のことを思ったときも、きずなを感じます。それが小さなことでも、してもらったときには、大きな幸せを感じるのです。ぼくが大きくなったときには、子供にふとんをかけてあげたいです。



ぼくのばあば

広島市立梅林小学校 若月 咲太朗

ぼくのばあばは、ぼくの好きなだしき卵を作ってくれます。お母さんたちが仕事に行った後、様子を見に来に来てくれたり、電話をかけてくれ、「大丈夫、何かあったらすぐ電話してね」と言ってそんなやさしいばあばが大好きです。

去年の花火大会の帰り、電車からおりたばあばは今まで見たことのない苦しそうな顔をしていました。何が起こったのか分からず、心配で泣きそうになりました。お母さんが救急車を呼んで運ばれた所を見てぼくは何もできませんでした。朝起きてすぐお母さんに、「ばあばは大丈夫？」と聞くと「退院して大丈夫

よ」と言われ安心しました。ばあばがみんなを心配させて悲しんでいると思い、その日は電話せず翌日、電話をしたら、「心配かけてごめんね」と言われそれを聞き、「ごめんねじゃないよ、よかった」と言いました。

今まで元気なばあばしか見たことがなかったので本当にショックで心配でした。ぼくは元気なばあばに会えることが当たり前だと思っていたけど、そのことは当たり前でないということに初めて気づきました。これからも、ばあばと今まで通りすごせることに感謝していつまでも一緒に笑顔でいたいです。



家族ずっと一緒

広島市立中筋小学校 中村 彩那

私達は、お父さんの転勤で広島に来ました。最初は友達や、家族と離れることがいやで反対しようと思いました。でもそれとは別に、期待する気持ちがありました。理由は、来たことの無い場所でこれから生活すると考えると、少しだけワクワクしたからです。

私には、一年生からの親友が四人います。四人とは、離れたくありませんでした。私はとても悲しくなってしまう泣いてしまいました。その様子を見た、お父さんお母さんがもう一回話し合いをしようと言ってくれました。その時にお父さんが「子供達はどうしたい？お父さんは一人で広島に行ってもいいよ」その

言葉を聞いた時にお父さんと離れたくない、やっぱり家族一緒がいいと強く思いました。「私は、やっぱりみんなで広島に行きたい」と、お父さんお母さんに言いました。

今、広島に来てまだまだなれないこともあるけど、ふと考えるとそれは私だけではなく家族みんなが同じ状況だと思います。しかしそんな中でも何気無い日常が幸せなんだと感じます。それは家族みんなが一緒だからこそ気づけたことだと思います。これからも家族みんなで楽しく過ごしていきたいです。



かけがえのない家族の時間

広島市立緑井小学校 林 果歩

大学生のお兄ちゃんがひさしぶりに帰ってきて、家族でおじいちゃんとおばあちゃんの家に行きました。

いつも、ご飯を食べたあとにトランプやUNOをします。トランプの内容はばば抜きと七並べと神経すい弱をしました。

神経すい弱でおじいちゃんがしんけんにくっっています。よく見ると、自分がとったトランプをくっっています。みんなが笑いました。おばあちゃんは、同じトランプをくっつけてくやしがつて笑っています。家族みんなが笑いました。

二〇一九年におじいちゃんとおばあちゃん

は大きな事故にあい、命を落しそうになりました。長い間入院して、リハビリをがんばって、今ではグランドゴルフができるほど元気になりました。医者の力と治したいという強い気持ちでのりこえることができたんだと思います。

今まであたり前だと思っていた日常はふつうにあるものだと思っていたけど、あたり前のことなんてないんだと思いました。家族で笑って過ごす時間は、かけがえのない幸せな時間なんだと思いました。



私の素敵な家族へ

広島市立口田東小学校 山本 莉央

私は、幸せ者です。それを感じるのはビデオカメラに残された思い出を見ている時です。

旅行にたくさん行かせてもらったり、新しいことにチャレンジをする私は、いつも笑顔です。時には、なみだする私もあります。でも、これはお母さんとお父さんが私にくれた、「経験」です。ことわざである「経験は宝なり。」経験はかけがえのないものです。そんな貴重な経験をさせてくれたお母さんとお父さんに私への愛を感じます。その愛を感じるから、私は幸せ者なのです。ここまで、大きな病気にもかからず、生きてこられたのは、家族のおかげです。こうして、自分で自分を幸せ者と言えるの

も、今、私の夢があるのも、全部、私を全力で育ててくれたお母さんとお父さんのおかげです。

「ここまで私を育ててくれてありがとう。

色々な経験をさせてくれてありがとう。

まだ伝えきれないほどの感謝の気持ちでいっぱいだけど、一つだけ言える。

私は、ものすごく幸せです。

今度は私が家族のみんなを幸せにしてみせる。それまで待っててね。」



ひいおじいちゃんの笑顔

広島市立大河小学校 寺尾 理桜

私がいつもひいおじいちゃんに会ったら、笑顔で出迎えてくれます。とても優しく、とても笑顔でした。でも私はあまりひいおじいちゃんと話せない。それでもひいおじいちゃんがとても大好きでした。

しかし、ひいおじいちゃんはある日、ベットと壁の間に挟まり、ご飯が食べられなくなり亡くなった。急いでひいおじいちゃんの元へ行ったが遅かった。

ひいおじいちゃんのお葬式。みんなが泣いている。私は、みんなの気持ちが伝わった。ひいおじいちゃんは、みんなに愛され、みんなを笑顔にしてくれることがどれだけ凄いかと改

めて思った。

私は、あれだけ優しくされ、笑顔で出迎えてくれたひいおじいちゃんに「今までありがとう。」と言えなかった。だから、心の中で「今までありがとう。」と言った。「心の中の気持ちが届いていればいいなあ。」と思いながら私は言った。

私は今でも、ひいおじいちゃんの家に行く、ひいおじいちゃんに手を合わせる。「ひいおじいちゃんの笑顔は忘れない。」と。次は私がみんなに笑顔を向ける番。ひいおじいちゃんと一緒にね。



‘お姉ちゃん、も悪くないかな

広島市立河内小学校 山口 莉乃

私は三人弟妹の一番上です。7才の弟と3才の妹がいます。二人とも生意気でケンカばかり。お姉ちゃんなんだから、とよく言われてモヤモヤしています。弟や妹なんて知らない、私もお姉ちゃんがほしい。そんな事を思う時もあります。お父さんにその話をすると、弟が産まれた時の話をしてくれました。

弟はお母さんのお腹の中から早く出て来ました。切迫早産と言うらしいです。ある夜に突然お腹がいたくなってしまい、きん急入院する事になってしまったそうです。そのまま二ヶ月くらいお母さんは入院してしまい、なかなか会えずさみしかった事は覚えていま

す。なんとか無事弟は産まれてきました。でも弟もすぐ入院してしまいずっと機械の中ですごしていました。今では、とても元気で、同じ小学校に通っています。お父さんは最後に、「ちょっとでも早くお姉ちゃんに会いたくて出てきたんだろうね。」と言いました。その話を聞いてちょっぴりうれしかったです。

その後妹も産まれ五人家族になりました。一緒にお出かけしたり、旅行に行ったり、遊んだり毎日楽しいです。弟や妹のお世話をしたり、たよりにしてくれる事もあるので、

‘お姉ちゃん、も悪くないかな。



ぼくのお父さんは見守りパトロール

広島市立湯来南小学校 蔵永 圭太郎

ぼくのお父さんは、毎日学校に行く時に、ぼくの登校班のみんなと一しょにと中まで、歩いてきてくれます。お姉ちゃんが小学一年生の時から、ついてきてくれてもう7年目になりました。

なんで見守りパトロールをやっているか聞くと、「子供たちの話を聞くのが楽しいし、子供たちの笑顔を見るのがうれしいから。」とっていました。

ぼくたちのすんでいる湯来町は、歩道がない所もあったり、いのしし、くま、サルなどのどう物も出てくるので、ついてきてくれて心強いです。

ぼくの通学路は見とおしがわるくて、車がきゅうに出てきてぼくも運転手さんもビックリすることがあるので、お父さんの手づくりでとび出し注意のかん板を立ててくれたので安心です。

ぼくが中学生になるまでいっしょに歩いてくれるといっています。毎日いろんな話をしながら楽しく登校しています。

そんなお父さんが大好きです。



台風とお母さん

広島市立楠那小学校 松田 莉奈

私は家族の愛を感じたことがあります。それは、夏の台風の時期です。

私はいつもお母さんと同じ一つのベッドでねています。ある台風の時期の日に、いつもどおり、私がまどぎわの方にねころがると、お母さんが、

「りなちゃんは、こっち。」

と、テレビ側の方にねるように言いました。そのことから私は、「台風から私を守ってくれているんだな。」とすぐに分かりました。でも、お母さんははっきりとは、「台風から守るね。」とは言いませんでした。それでも、私はうれしくて、心の中で「ありがとう!」とさげび上げま

した。

結局、台風は来ずに、何のひがいもなかったけど、今でもこのことはわすれられません。家族の愛に包みこまれた感しょくでした。いつか、お母さんに感しょくを伝えて、ありがとうの気持ちを分かってほしいです。あと、私とお母さんは、にている所があまりないと言われていいます。でも、あの日の夜、私はお母さんと心で話し合えた気がしました。きっと私とお母さんの愛は日本一です!



私と妹

広島市立安北小学校 玉本 晴香

私には、二さいはなれた妹がいる。私と妹は、いつもけんかばかりしている。どうしてけんかになるのか、私には分からない。でも、いつのまにか仲直りしている。

その妹が、去年の夏に、けいれんを起こし、意識がなくなって救急車で運ばれた。突然のことだったのでとてもおどろいた。私は、車に乗って、病院に向かった。その間、心配で心配でたまらなかった。病院にとう着したが、まだ妹の意識はもどっておらず、そのまま入院することになった。私は、初めて妹がいない夜を過ごした。いつもけんかばかりしている妹だけど、いないとさびしく感じた。小学生の私

は、おみまいにはいけなかったもので、結局三日間、妹とはなれて生活した。妹の具合は、良くなったかな、今何をしているかなと、何度も考えた。

やっと妹のたい院の日が来た。うれしくて急いで車で、むかえに行った。妹は、思っていたより元気そうだった。その顔を見て私はほっとした。元気になって本当に良かったと思った。

このことで、妹がいないとさびしいことを実感した。これから、けんかばかりすると思うけど、妹を大事にしていきたい。



命をつないだお守り

広島市立宇品小学校 上原 桃果

私が小学三年生の時、三歳上の兄が横断歩道で走っていて転びました。かたを大きく打ち、歩けなくなっていたところを、トラックの運転手さんが助けてくださいました。救急車で病院に運ばれ調べると、さ骨を骨折していました。二回も手術すると知り、私は大丈夫なのかと心配になりました。その後、私は手術が成功するように願い、お守りを作りました。表には兄のイラストを書いて、裏に兄が元気になるようにメッセージを書きました。さっそくあげると「ありがとう」といってにぎりしめていました。そして手術当日、私が兄に作ったお守りには、お母さんとお父さんもメッセー

ジを書きました。そのおかげもあって手術は成功しました。半年後、二回目の手術も成功し、お守りのおかげかな？と思ううれしくなりました。

私はあの時お守りを作ってよかったと思え、もしあの時兄がひかれていたらどうなっていたのかなと思うとゾッとします。今ではかたも治り兄は野球部で毎日練習にはげんでいます。今ではあのお守りは家族の大切な宝物です。



おじいちゃんとのしょうぎ

広島市立仁保小学校 横溝 健人

ぼくは、しょうぎが大好きです。ぼくのしょうぎ歴は、保育園の年長から始まります。しょうぎを友だちや先生に教わって、好きになりました。

今、一番しょうぎに付き合ってくれる人は、倉敷に住んでいるおじいちゃんです。毎年、おぼんやお正月におじいちゃんの家遊びに行きます。その時は、ひいひいおじいちゃんが使っていた、しょうぎばんで対戦します。朝の五時半から、多い時で、十回以上やります。毎日こんなにつき合ってくれるおじいちゃんは、やさしいです。去年の四年生の夏、おじいちゃんに

「強くなったね。本気を出さないと勝てなくなってきたよ。」

と言われて、強いおじいちゃんにほめられて、うれしかったです。おじいちゃんがいっぱいしょうぎに付き合ってくれたから強くなりました。

今年は、弟もしょうぎができるようになったので、次いった時、三人といっしょにやりたいです。

「おじいちゃん、こんなにしょうぎを付き合ってくれてありがとう。これからもいっぱい対戦しようね。」



家族のフォトブック

広島市立庚午小学校 徳永 誉乃

私には、おじいちゃんとおばあちゃんがあります。毎年、家族の行事でおじいちゃんとおばあちゃん家に行きます。行ったら、ごはんを食べたり、お話をしたりします。そのなかの行事の1つに、けいろうの日があります。けいろうの日には、私の一年間のさまざまなことを、フォトブックにまとめて、プレゼントを生まれてからずっとしています。そのブックは、今年で11さつ目をむかえました。前のフォトブックを見なおしてみたら、笑った私と、家族がたくさん写っていました。赤ちゃんのころの記おくはないけど、みんなが私を見て笑っているから、しあわせだったんだと思います。

私はもう成長したから、今の記おくは、ずっとわすれないと思います。フォトブックを見るたびに、こんなにうれしい気持ちになれるから、今年もいっぱい笑って、すてきなフォトブックを作って、おじいちゃんとおばあちゃんにプレゼントしたいです。



私のご先祖様

広島市立美鈴が丘小学校 穴戸 日和

今年の夏休みは、お父さんのおばあちゃんの家泊まりに行きました。お父さんとお母さんと弟と、かっている犬で泊まりました。お父さんのおばあちゃんなので、私のひいおばあちゃんになります。ひいおばあちゃんは私のお父さんが中学生の時に死んでしまっているので、私は写真でしかひいおばあちゃんを見た事はないです。おばあちゃんの家に行くと、私のひいおばあちゃんの写真とは別にひいひいおじいちゃんとおばあちゃん、そのさらにご先祖様のひいひいひいおじいちゃんとおばあちゃんの絵もかけられています。

その写真を見た後に、お盆なのでお墓に行

くと、お父さんが「このお墓に写真のおじいちゃんおばあちゃんが入ってるよ。」と教えてくれました。そのお墓は今までご先祖様が何個かのお墓に分けて入っていて、中には赤ちゃんのお墓もありました。お父さんに聞くと、「昔は今みたいに病院も薬も無いから、風邪を引いても大変だったんだよ。」と教えてくれました。

お墓を見てるうちに、ご先祖様の命が続いて私まで続いているんだと思うと、不思議な気持ちと、私も自分の命を大切に命をつないでいきたいと思いました。



小枡家の一年の目標発表

広島市立東野小学校 小枡 真尋

小枡家は、正月にいとこなど家族みんなで集まります。

元旦のごちそうを食べる前に、祖父が問いかけて家族全員が、一年の目標を発表します。それは、ようちえんのころから続いています。その場で目標を考えるのですが、いつもドキドキきんちょうします。去年やさしかった祖父が亡くなりました。今年は目標発表は、ないかなと思いました。しかし、父が「今年も目標発表をやるよ。」と言いました。いつもは、祖父が発表の後「がんばれよ。」と頭をなでてくれました。その時がんばろうと思いました。今年は、祖父がいないので姉が紙に書いて、ぶつだ

んにお参りをして、目標をはりました。きっと祖父はいつも私達を見守ってくれていると思います。決してあきらめずにがんばろうと思います。小枡家の一年の目標発表は、家族みんなの事が分かって応えんしたくなります。これからもずっと続いてほしいと思います。



お母さんのおまじない

広島市立皆実小学校 中山 千穂

私のお母さんはいやなことがあっても、夜ねる前にベッドの上で今日も一日いい日でした。明日はもっといい日になります。といってくれる。けんかをした後でも、お母さんが家の事でいそがしいときでも、必ずいつてくれる。そのおまじないを聞いたり、いっしょに言ったりすると、なぜかその日にあったいやなことをわすれて、ぐっすりとおねむれる。お母さんのおまじないはもう一つある。お母さんは一つ目のおまじないの後に、大好きだよといっただきしめてくれる。私は暗い所が少しにがてだけれどもだきしめてもらおうと、暗い所でも安心してぐっすりおねむれる。他の人に

は、もっと効くおまじないがあるかもしれない。でも、私によく効くのはお母さんのおまじないだ。



いつまでも元気なおばあちゃん

広島市立三入小学校 平川 穂香

わたしのおばあちゃんは、呉に住んでいます。二、三ヶ月ごとに、わたしのお家に泊まりに来てくれます。そして、いっしょにオセロをしたり、点つなぎをしたりして遊んでくれます。

一週間ぐらいお家に泊まりに来ているので、いっしょにお買い物に行ったり、旅行に行ったり、いろいろなことをします。

でも、おばあちゃんは、最近物忘れがひどくなったり、何回も同じ事を聞くようになりました。わたしは、「どうしたのかな。」と思っていました。

するとお母さんが「おばあちゃんは、認知症

という病気になったんだよ。」と教えてくれました。わたしはそれを聞いて、「そんな病気だったんだ。」とびっくりしました。

でもおばあちゃんは、まだまだ体は元気で自分の事は自分でできるので、これからも遊びに来てくれるみたいです。おばあちゃんがこれ以上物忘れがひどくならないようにわたしはしっかりお話ししようと思いました。いつまでも、元気でいてほしいです。



私は長女

広島市立大河小学校 神本 百咲

「新しい生活が始まるんよ。」お父さんが言った。私がお父さんと病院に来ていた時に聞いた言葉だ。

私には二才下の妹がいる。私は、妹が産まれた時、まだ三才だった。おさなかつたので、妹が生まれ、病院に行ってお母さんがうれしそうに赤ちゃんをだっこしている時、まだ何が起こったか分からなかった。ポーとお母さんを見ていると、お父さんが「百咲、新しい生活が始まるんよ。百咲はお姉ちゃんになるんだ。」と言った。私は信じられなかった。その後妹と何回会っても信じる事ができなかった。ずっと三人家族だと思っていたから。で

も、初めて妹が家に来た時、私は、「これからこの子が私の妹になるんだ。」となぜかしっくりきた。病院で何回会ってもそうは思わなかったのに。

その時のことは今でもわすれられない。これからも決して忘れることはないだろう。そして、この出来事は、私に家族ができることは、すばらしいことだと思わせてくれた出来事だった。だから、私はもし、新しい家族ができて、笑顔でかかげいし、「産まれてきてくれてありがとう。」と言ってあげたい。



弟が生まれて気づけたこと

広島市立日浦小学校 東 畠 光那

私が四才の時に弟が生まれました。お母さんがにんしんした時、私はすごくうれしくて、絶対女の子で妹が生まれてくると思っていた。でも、お母さんから、「おなかの赤ちゃんは男の子だったよ！」と言われ、すごく泣いたのを覚えています。そこから、生まれてくるまで、私は正直あまりうれしくありませんでした。しばらくたって、お母さんはおなかがいなくなり、「もう生まれるから病院行ってくるね。」と言われたので、私も急いでおばあちゃんについて行きました。

そこで、私は、お母さんの大変そうな姿を見

ました。その時、妹じゃなくても、元気に生まれてきてくれればいいという気持ちに変わりました。

そして、ついに出産の時、私も中に入ることができました。生まれてくる瞬間を見た時、私は、「お母さんすごい」と心のそこから思いました。

そこから、弟のことがかわいくて、妹じゃなくても、弟でよかったと心から思いました。ミルクをあげたり、だっこしたり、お世話をするたびに、ますます弟のことがかわいくなり、家族の大切さを弟を通して感じました。



家族で笑うことの大切さ

広島市立中野小学校 市 木 結 士

去年の年末から年始にかけて、ぼくたち家族は大変でした。父以外の三人が順番にインフルエンザにかかり、まず兄が高熱を出し、次にぼく、最後に母が寝込んでしまいました。看病や家事が重なって、母もつかれがたまっていた。ある日、父と母が少し強い口調で話しているのが聞こえました。ぼくはその声にびっくりして、胸がざわざわしました。でもそのあと、父が母に「がんばってくれてありがとう。」と言っていたのを聞いて、なんだかほっとしました。おたがいを思っているからこそ、言いたいことが出てしまったんだと、なんとなく思いました。そんな中、兄が「大丈夫、もうすぐ

みんな元気になるよ」と言ってくれて、ぼくの気持ちも明るくなりました。やがて家族全員が元気になり、四人で食卓を囲んだとき、父と母が「これからは四人でいっぱい笑って、元気でいられる毎日にしようね」と言いました。その言葉を聞いて、ぼくは家族と笑い合える毎日がどれだけ大切に気づきました。これからも四人で助け合って、笑顔で過ごしていきたいです。たとえつらいことがあっても、家族で支え合えばきっと乗り越えられると、今回のことで強く思いました。



母さんのいない日々

広島市立筒瀬小学校 岸 亮 成

あの日まで、母さんがいなくなると考えたことはなかった。だけど、母さんは入院した。

うちは、母さん、父さん、兄、ぼくの四人家族だ。日々、生活している中でぼくは、母さんに注意されることかイヤだった。そのときのぼくは、また母さんの大切さを分かっていたのだと思う。母さんが入院した日、その後の生活で、ぼくは母さんのありがたみを知ることができた。あの日々がなければ、母さんの注意がいやなぼくのままだっただろう。

母さんの入院、なかなか心の整理ができなかった。母さんがいない初めての朝は、すっきりと起きることができなかった。ご飯を食べ

るのもおそくなってしまった。コロナウイルスも流行しており、いつもとちがうことがたくさんあって、ぼくは泣きそうだった。それでも、けいたい電話で久しぶりに母さんの声を聞くと、何だか心がすっきりした。そして何日かたったある日、無事母さんは帰ってきた。

今でも四人家族、泣いたり笑ったり、楽しく元気に過ごしている。でもぼくは、あの日のことを忘れない。母さんがこまったら助けたいと思っている。



ひいおばあちゃんのお見まい

広島市立五月が丘小学校 中村 葵衣

わたしのひいおばあちゃんは、あみ物の先生をしています。会った時はいつも、カラフルなエコたわしをプレゼントしてくれました。明るくてやさしいひいおばあちゃんでした。

そのひいおばあちゃんは去年から入院をしていました。家族でお見まいに行く事がありましたが、小学生のわたしは面会きんしなので、いつも会えませんでした。それがある日、お見まいに行った時にかんごさんが、「五年生なら大じょう夫だと思います。病室へどうぞ」と言ってくれたので、病室に入ることができました。その時はびっくりしましたが、ひさしぶりにひいおばあちゃんに会えて、うれし

かったです。ひいおばあちゃんはもうしゃべれませんが、わたしをずっと見つめてくれました。何かをわたしに伝えているように感じました。その二日後、ひいおばあちゃんは天国へ行ってしまいました。わたしはとても悲しかったですが、あの日最後にちゃんとあいさつができて、よかったです。また、あの時ひいおばあちゃんと面会をさせてくれたかんごさんに、感謝の気持ちを伝えたいです。

ひいおばあちゃんがくれたエコたわしを、これからもずっと大切にします。



いつもありがとう

広島市立可部南小学校 東 和弥

ぼくのお父さんは勉強をわかりやすく教えてくれたり、いっしょに遊んでくれる、やさしくて自まんのお父さんです。

生き物が好きで、し育員やじゅう医の仕事にきょう味があるぼくのために、お父さんは休みの日になると動物園や水族館を調べて連れて行ってくれます。一番好きなのは、オオサンショウウオがいる安佐動物公園です。ぼくが家でオオサンショウウオをかいたいと話した時、お父さんが「ウーパールーパーならかえるよ」と言ってウーパールーパーがいるお店をさがしたり、かうための道具をそろえて準備をしてくれました。一年前から家族になっ

たのでうれしいです。

さらに、お父さんはごみを出したり、時間がある時は洗たくやそうじなどもしています。お父さんはお母さんのことを考えて行動しているようで、かっこいいなと思いました。お母さんに聞いたら、とてもうれしかったすかっているといっていました。ぼくもお父さんやお母さんをたすけられるように、相手の気持ちを考えて行動したいです。

家族のためにいつもありがとう。



家族の努力

広島市立八幡小学校 間恵 妃夏

私の家族はみんな努力家です。みんな、ぐちをはかず、それぞれのやるべきことをやって、次の目標にむかってみんながんばっています。兄は、ちいさいころは、よくあきらめ、勉強も、スポーツもあきらめてしまうせいかくでしたが、いまは手に血豆ができるほどがんばっています。

母は、べん当、私と兄のならい事の金、しごと、色々ほんとうにがんばっています。母は強い心をもち人の目もきにしません。どんな時だって、母はいつも愛してくれます。おこった時も、ないた時も。

父は、機械をつかう、しごとをしています。

かえったころには、手や、あたま、色々なところをけがしてかえってきます。父は、一番に家族のことをだいじにしていると思います。夜ごはん、せんたくもの、あらいもの、色々なことをやってくれます。父は家族をえがおにする人です。

私の家族は少しがんばりすぎだと思います。体をだいじにがんばってほしいです。私の家族はみんな努力家です。



弟のジェスチャー

広島市立白島小学校 田中 心結

私は三さい下の弟がいる。弟はしょう害があって言葉で意思を相手につたえることがむずかしい。だから弟がつくったジェスチャーでいつも過ごしている。私もお父さんもお母さんも最初は何のジェスチャーをしているのとは分らない。でも弟が好きなことを「これ?」「これ?」ときいて弟が「はい」と言うまで聞き家族でしようゆうしている。このことから私は弟が何度もあきらめずに自分の気持ちを伝えたいという思いが強く私も必ずほうっておくわけにはいきません。私はお父さんお母さんも同じだと思います。私の弟は友達弟や妹とはちがう。私はそれがいやだや

マイナスに思ったことは一度もない。私は弟の元気よく返じをしてくれるとこあきらめず意思を伝えているとこかわいいとこはとても大好き。私は弟が弟でとてもよかったと思っています。いつも元気な返じをありがとう。そんな弟が大好き。



にぎやか家族は似たものどうし

広島市立東野小学校 川畑 祐人

ぼくは、「お父さんと似ているね。」と言われることがあれば「お母さんにそっくり。」と言われることもある。

ぼくは、「どこを見て似ていると言っているのかな」と思った。お父さんと似ているところは、すぐ調子に乗るところ。お母さんに「うるさい。調子に乗るな。」とおこられて、ぼくとお父さんはしゅんとなる。お母さんと似ているところはどじなところ。ぼくもお母さんもよくこける。そのことをお母さんに話したら、「ゆうとに言われたくない。」とやさしい声をとがった声に変えておこられてしまった。お父さんとお母さんも似ているところがある。

それはぼくも似ているところ。家族全員の似ているところは、にぎやかなことが好きということ。お祭りに行ったときには、周りにいる人をまきこんで、わいわいもり上がる。記念日やいいことがあった日は、すぐかんぱいをして、楽しいパーティーをする。何なら毎日、明るくかんぱいをする。

似たものどうしだと、楽しいことがいっぱいある。今日も笑顔が絶えないわが家からにぎやかな声が聞こえる。



ふたごの姉

広島市立五日市南小学校 金沢 結衣

私にはふたごの姉がいます。仲良しですが、いつもけんかになります。夏休みなんて、毎日何回もけんかをして、母に毎日おこられています。でもこの「家族のきずなエッセイ募集」の宿題をやろうと考えた時、幼稚園でしたかくれんぼのことが、ふと思うかびました。

幼稚園でみんなとかくれんぼをした時のことです。私は、あそび道具がたくさん置いてあるうらのすき間にかくれました。みんな見つかっていく中、私は全然みつかりませんでした。とても長い間見つからなくてどうしよう、出た方がいいのかな?と思いながら、みんなを見ていると姉が泣きながら必死に私をさが

していました。他の子はだれも泣いていなかったけど姉だけが泣いて先生にだっこされていました。そうしているうちに先生に分かりました。姉が泣いていたのでびっくりしたけれど今思うと一人だけ泣くほど心配してくれた姉とは、幼稚園ながら家族のきずながあったんだろうと思います。

これからも、けんかはしてしまうけど、本当にこまった時や悲しい時は味方になってくれるだろうと思えるきずなを感じています。



わたしのお父さん

広島市立宇品東小学校 天満 優希

わたしのお父さんは、わたしが一才の時に、病気でなくなりました。お父さんとの思い出は覚えていない。そのかわり、たくさんのことをお母さんから聞いた。

わたしは、お父さんがけっこんした、二年後に生まれた。お父さんは、わたしが生まれた時、すぐ病院へかけつけてくれ、とても喜んでくれたそう。そして、わたしの顔をずっとながめていたそう。お母さんが、

「物静かなお父さんが、あんなに喜んだところを見たことがない。」

と、言っていた。

また、わたしをいろいろな所に連れていっ

てくれた。桜を見に行ったり、花火大会へ行ったり、お城を見に行ったり…。いつも、

「ゆうちゃんと、どこへ行こうか。」

と、うれしそうに、なやんでいたそう。

お父さんが病気になり入院して大変だったそう。だけど、お父さんは、わたしのためにがんばって治りようにはげんでいたそう。

わたしが、お父さんの希望になっていたと分かって、うれしかった。今度、お墓に行き、お父さんといろいろな話をしようと思っている。

「お父さん、これからもがんばるね！」



私のお兄ちゃん

広島市立井口明神小学校 賀川 莉子

私の家族は4人家族です。パパとママとお兄ちゃんと私です。お兄ちゃんとは3つ学年がはなれていますが、一度も同じ保育園や小学校に通ったことはありません。お兄ちゃんには、障害があって特別支援学校に行っています。

私は、小さいころからお兄ちゃんの事で、がまんしたりいやな思いをしたり、通りすがりの人に見られたり、笑われる事が多くあってお兄ちゃんの事がいやだなあと思う事が多くありました。パパもママもお兄ちゃんを優先する事が多いのでお兄ちゃんの事は好きではありませんでした。でも、何年前に家族みん

なで、公園のブランコで遊んでいたら、後から来た姉妹が私のお兄ちゃんを見ながらコソコソクスクスと笑っているのに気づきました。そのときに、すごくはらがたちました。いつもは、あまり好きじゃないと思っていたお兄ちゃんの事を何も知らない人達に笑われた事がすごくよくて心の中がムカムカしました。ふだんいやだと思っていたお兄ちゃんの事を大切な家族の一人だと思っていた事に気づきました。

これからは私なりに家族のきずなを大切に、お兄ちゃんを守ってみたいです。



私の大切な人

広島市立みどり坂小学校 池田 紗菜

私には、やさしくて元気なひいおじいちゃんがありました。ひいおじいちゃん、暑い中でも、百段以上ある階段を上り下りできるほど元気でした。そして、毎日畑仕事をしていて、色々な野菜を食べさせてくれました。

でも、施設に入っていた、ひいおばあちゃんが亡くなってしまい、ひいおばあちゃんのことを大好きだったひいおじいちゃんの元気がなくなっていました。私は、動けないひいおじいちゃんに、飲み物を飲ませてあげたり、話し相手になってあげたりしました。

でも、私が三年生の時亡くなってしまいました。夏休みや冬休みに、毎日のように会いに

行っていたので、もう会えないと思うと、とても悲しかったです。

今は亡くなって二年経ちますが、時々思い出してさみしくなります。会えるなら、学校の話や、最近飼いだめたねこの話をしたいです。でも、できないから、おばあちゃんの家に行くたびに、仏壇の前で、線香をあげて手を合わせています。そこにひいおじいちゃんと、ひいおばあちゃんがいると思いながら、心の中で話しかけています。

「毎日元気にすごしているよ。ずっと見守っていてね。」

参加学校名

広島県モラロジー協議会が行いました「家族のきずな」エッセイ募集事業の目的にご賛同いただいた84校から、5,372名のご応募をいただきました。

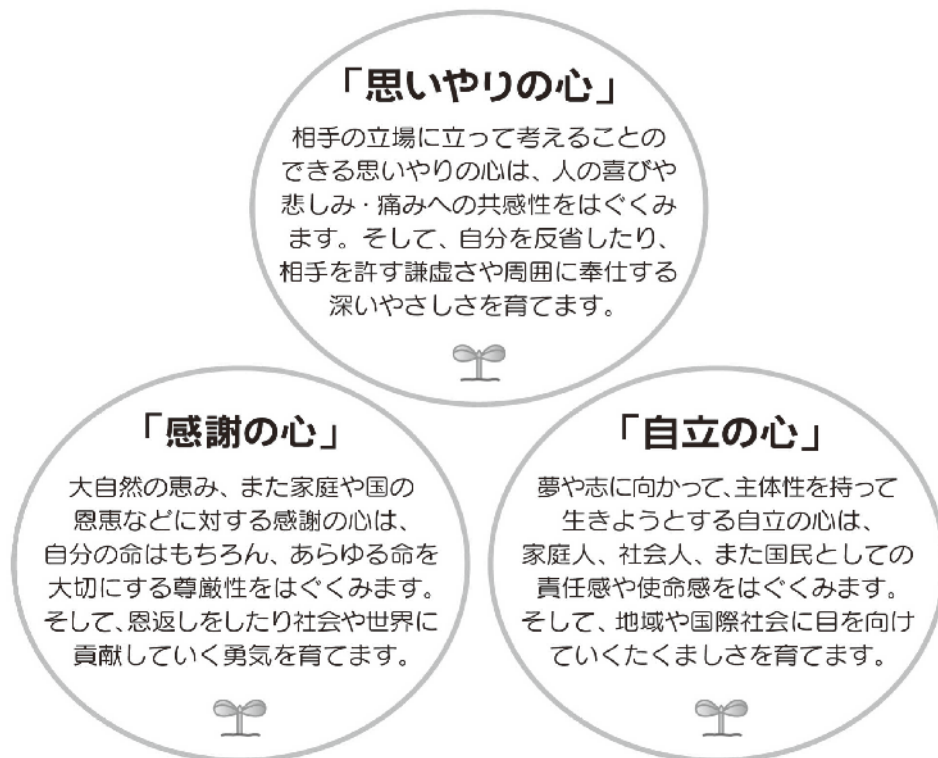
広島市立白島小学校
広島市立基町小学校
広島市立袋町小学校
広島市立千田小学校
広島市立吉島東小学校
広島市立吉島小学校
広島市立神崎小学校
広島市立舟入小学校
広島市立温品小学校
広島市立戸坂城山小学校
広島市立東浄小学校
広島市立中山小学校
広島市立牛田新町小学校
広島市立早稲田小学校
広島市立牛田小学校
広島市立矢賀小学校
広島市立荒神町小学校
広島市立大州小学校
広島市立青崎小学校
広島市立比治山小学校
広島市立皆実小学校
広島市立翠町小学校
広島市立大河小学校
広島市立仁保小学校
広島市立楠那小学校
広島市立宇品東小学校
広島市立宇品小学校
広島市立向洋新町小学校

広島市立観音小学校
広島市立南観音小学校
広島市立己斐東小学校
広島市立古田小学校
広島市立庚午小学校
広島市立草津小学校
広島市立井口小学校
広島市立井口明神小学校
広島市立古田台小学校
広島市立緑井小学校
広島市立川内小学校
広島市立中筋小学校
広島市立古市小学校
広島市立大町小学校
広島市立毘沙門台小学校
広島市立安東小学校
広島市立安北小学校
広島市立安西小学校
広島市立祇園小学校
広島市立山本小学校
広島市立長束小学校
広島市立伴小学校
広島市立梅林小学校
広島市立大塚小学校
広島市立伴南小学校
広島市立東野小学校
広島市立春日野小学校
広島市立深川小学校

広島市立口田東小学校
広島市立三入小学校
広島市立可部南小学校
広島市立亀山小学校
広島市立筒瀬小学校
広島市立日浦小学校
広島市立中野東小学校
広島市立中野小学校
広島市立畑賀小学校
広島市立船越小学校
広島市立矢野西小学校
広島市立矢野南小学校
広島市立みどり坂小学校
広島市立石内小学校
広島市立河内小学校
広島市立八幡小学校
広島市立八幡東小学校
広島市立五日市観音西小学校
広島市立五日市観音小学校
広島市立五月が丘小学校
広島市立美鈴が丘小学校
広島市立五日市小学校
広島市立五日市南小学校
広島市立彩が丘小学校
広島市立湯来南小学校
広島市立石内北小学校
広島大学附属小学校
学校法人鶴学園なぎさ公園小学校

道徳で人と社会を幸せに

モラロジー教育では「3つの心」を育てます。



モラロジー(道徳科学)とは

モラロジー(Morality)は、「道徳」を表す(moral)と「学」を表すロジー(logy)からなる学問名です。日本はもとより世界の倫理道徳の研究をはじめ、人間、社会、自然のあらゆる領域を考察し、人間がよりよく生きるための指針を探求し提示することを目的とした総合人間学です。

公益財団法人モラロジー道徳教育財団

公益財団法人モラロジー道徳教育財団は、倫理道徳の研究と「心の生涯学習」を推進する研究教育団体です。大正15(1926)年に法学博士・廣池千九郎が創立、以来一貫して人間性・道徳性を育てる研究事業、社会教育事業、社会教育活動事業、出版事業、助成事業を展開しています。

広島県モラロジー協議会は、

公益財団法人モラロジー道徳教育財団より設置を承認された団体です。
よりよい社会づくりに貢献することを目的とした生涯学習活動を行っています。

企業協賛社

※50音順

ＩＩＳ協同組合
アクト中食株式会社
株式会社あじかん
井辻食産株式会社
扇屋塗料株式会社
有限会社大方塗装
株式会社兼正冷熱工業
カヤ工業株式会社
有限会社カワブ管財
観音不動産株式会社
株式会社金融財務研究所
株式会社サニクリーン中国
株式会社さんびる 広島営業所
ジャトー株式会社 中国営業所
株式会社橘運送店
中国倉庫運輸株式会社
有限会社ハーティ・フーズ
株式会社原本木材店
株式会社ピーアンドピー
広島食肉市場株式会社
広島陸送株式会社
福留ハム株式会社
有限会社藤岡保険コンサルタント
株式会社古昌
株式会社文華堂
株式会社前田屋
有限会社ミヤヤス
株式会社山貴
山元勇治税理士事務所

広島東モラロジー事務所
広島中央モラロジー事務所
広島西部モラロジー事務所
広島安佐モラロジー事務所
広島鯉城モラロジー事務所

個人協賛者

※50音順

石田 直	田能 公敏
和泉 尚美	鉄村 禮子
井上 君枝	飛子 和義
岩部 通夫	富田 逸司
宇恵 清恵	中川 斎
大田 英樹	中川 喜直
大坪 房江	中島 章
小川 芳輝	中島 修治
沖本 勝則	中村 光子
沖本 弘至	二井矢 香予
鎌田 淳平	二井矢 秀司
賀谷 興典	畑 和宏
賀谷 勝義	畑下 義雄
賀谷 誠一	濱本 郁子
賀谷 千文	林 和代
川本 通	原本 勝幸
川本 松夫	平岩 由紀雄
久保 忠	福原 治彦
栗原 良子	福原 康彦
古城 隆男	藤岡 忠
古城 保男	藤田 和広
小山 幸子	藤田 恭子
小山 知苗	藤田 誠一郎
小山 勉	部谷 佳子
酒井 秀樹	松井 洋之
櫻井 喜治	松岡 かずえ
笹長 久恵	松岡 與吉
進藤 郁朗	宮本 伊知郎
鋤田 佳苗	宮本 美佐代
鋤田 晋二	宮本 善州
須山 健司	森原 秀司
高野 正明	森原 敏行
高森 瑠美子	森原 ミルエ
高山 周治	森山 和子
竹本 祥士	山本 悦子
橘 義昭	吉清 皓一
田中 八代子	

